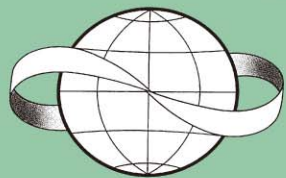


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



商標登録第 4882482 号

第64号

(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

謹賀新年

皆様におかれましては、希望と夢に胸膨らませて新年を迎えられた事と、お慶び申し上げます。

理事長 吉浦高志

さて、昨年は古紙を除く再生資源物が中国の景気減速と共に暴落した。古布は、年初までは好調に推移していたが、過度なりサイクルの拡大による品質低下や需要先であるインドネシアの輸入禁止等に起因して、主要輸出先であるマレーシアが購入を制限し、値崩れが起きているだけでなく、荷止めをされる間屋も出てきている。金属類も、鉄屑やアルミが夏以降続落しており、底が見えない。古紙のなかでも段ボールは生産、回収量共に順調に伸びているが、新聞雑誌は発生減に歯止めがかからず製紙メーカーの在庫も一時逼迫していた。その様な状況でも、可燃ごみの中に、まだリサイクル出来る古紙が沢山入っている。今年も引き続き市民に分別の重要性を訴えつつ、正しい資源物の出し方を発信していきたい。また、相変わらず後を絶たない古紙持ち去り問題も、何とか解決の糸口を掴みたい。人手不足も大きな問題だ。建築、運送業界ばかりが報道される

が、回収業界も同じである。特に最近各地に拡がっている行政回収の戸別収集化は、市民サービス向上につながる一方、回収業者にとっては、大きな負担増となる。増員増車をしてお対応しているが、固定の人員を確保が困難で、人材派遣業に依頼している組合員も少なくない。合わせて問題なのは、回収業界の高齢化と後継者不足である。地域に密着し、きめ細かなサービスを必要とする為、自ら先頭に担って働いて来た個人事業者、零細企業が非常に多い。

その様な問題を抱えながらも、全国の資源回収業者は、事業協同組合を結成するなどして、①収集、②加工処理、③製品販売の流れを地産地消で一貫して行うことにより、低コストで安定的な地域のリサイクルを維持してきた。

しかし近年、努力している地元資源業界をあざ笑う様な事が起きている。一つは入札問題である。資源回収事業の一部、ないしは全部が入札となることで、固定の利益はもろろん、雇用や設備の維持が難しくなり、廃業や組合自体を解散に追い込まれるところも出てきている。

二つ目は混合回収である。市民には分別させておきながら、回収はパッカー車で混載している。発

注元の自治体は回収車両減車で委託経費削減できるだろうが、古紙問屋では、混合回収された古紙をきちんと分別することは難しい。このため、品質基準の厳しい国内製紙会社ではなく、輸出をせざるを得ない。最近、中国でも国内基準と同等以上の品質を求めてきており、何時までも悪品質の古紙を輸出できる筈がない。混合回収が市民に知れ渡り最初から分別せずに出される様に成ると、更なる品質低下を招く。びん・缶の混合回収により、集団回収のアルミ缶にスチール缶やびんの混入が増えたことを考えると、集団回収の古紙でも同じ様な品質悪化が懸念される。古紙も古布のように販売先を失って、リサイクルが頓挫する危険性は十分に考えられる。

当組合も、厳しい業界環境には変わりないが、次世代を担う青年部が中心となつて、一致団結して地域リサイクル事業の完全な達成に日夜努力を重ねている。そして弊誌でも、何度となく無理なりサイクルを拡げること警鐘を鳴らしてきた。再生資源物は、品質が勝負であり、その為の正しい回収流通を止めることの無い様、今後も持続可能なリサイクルシステムを市民・行政と共に構築していくことに全力を尽くしたい。

リサイクル適性 (A)

直言拝聴

「中国の供給過剰がもたらす 鉄スクラップの低価格化」

株鉄リサイクリングリサーチ
代表取締役 林 誠一



内需低迷分を輸出でカバーする動きが中国鉄鋼業で始まっている。九月の中国の景況感を示す製造業購買担当者指数(PMI)速報値は、前月から〇・三ポイント悪化して四七・〇となり、リーマンショック時以来、六年半ぶりの低水準を示した。景気判断の別れ目である「五〇」は七ヶ月連続下回っている。建設需要動向を現わす固定資産投資の伸びも一四年初の一七・九%から一五年九月は一〇・三%に趨勢的に低迷しており、このうち不動産投資の落ち込みが大きい。内需低迷を反映して、一五年一

1. 増大する鋼材輸出

内需減速の顕在化に対して鉄鋼業は輸出によって稼働率(=収益)を確保しようとする動きが始まった。鋼材輸出は一五年一―一〇月は九、〇二四万トと前年比二五・四%増を示した。このペースで進めば一五暦年は一億ト超えの一億一、〇〇〇万トと推察され日本の粗鋼生産を超える。問題は八億トの生産に対して十一億ト(一二億

トという情報もある)を超える過剰設備が存在していることである。政府は一七年までに一億トの過剰設備を削除することを目標としているが、内需減速分を考慮しておらずその程度では過剰問題は解決しない。解決の困難さに①地方にとつて有力な財源となつていくこと②雇用の受け皿となつていくことの二つがあげられる。従つて

2. 半製品ビレットの輸出

一四年後半から顕著な増加が始まった「合金鋼添加ビレットの輸出」は現状の鉄スクラップ価格低下に直接影響している。中国の鉄筋棒鋼生産は固定資産投資の減速の影響を受け一五年初より前年を下回る水準で推移しており、余剰ビレット対策として輸出が一四年後半から顕著となつた。しかし「ビ

レット」輸出には関税が二五%かかるため、関税がなくかつ増値税還付率が一三%あるクロム等の合金鋼を添加したビレットとして輸出が行われている。一五年一―一〇月累計は推定二、〇五〇万トとなり、すでに世界最大のスクラップ輸出国である米国を超えた。しかも量増大に対して輸出単価は逆に低下の方向にあり、韓国、インドネシア、ベトナム、トルコ等の電炉稼働を代替し始めている。結果は鉄スクラップの世界流通に影響しているが、中国では高炉メーカーが低鉄鉱石価格により製造しており、低コストで輸出が可能となつている。従つて鉄スクラップ価格の中国輸出ビレット価格収斂が起きている。一二月に政府は二五%のビレットと銑鉄の輸出関税を一六年一月より二〇%、一〇%に下げると発表したが、増値税還付率一三%を無くさない限り、続くことを覚悟する必要がある。

3. 余剰銑鉄の輸出

銑鉄を輸出する場合、二五%の輸出関税があることもあり一四年の輸出量は三九万トと小さい。一四年の向け先は韓国二〇・六万ト(全体の五二・八%)、日本八・三万ト(同二一・二%)を主力にア

アジア地域が三四・七万ト(全体の八九%)だった。日本は為替レートの優位な時や鉄スクラップ市況とのにらみで、大手電炉が鉄源として購入している程度である。一五年一十月も二六万トであり前年同期を二五%下回る未だ増勢に向かっていない状態である。

世界の輸出量は年間一、二〇〇万トであり、ロシア、ウクライナ、インドなど外貨獲得を目的とした製鉄国が主である。銑鉄は高炉―転炉法一貫において転炉に投入されて鋼になる鉄源であり、従って所内(国内)使用を主体とし、同じ鉄源である鉄スクラップと比べると趣旨が異なる。世界流通量も小さい。輸入国では電炉鋼生産時の希釈や、高付加価値鋼材の生産鉄源に使用されている。しかしながら電炉鋼においても社会の高度化に合わせて高品位鋼材のニーズが高まる方向にあり、価格次第だが高品位鉄源として中国の銑鉄輸出拡大は軌道に乗る恐れが高い。現状の二五%関税はやがて削減され、輸出にドライブがかかるのは時間の問題と考える(一二月九日中国政府は一六年一月一日よりピレットと銑鉄の関税を二〇%と一〇%に引き下げると発表した)。銑鉄の輸出増加は、鉄スクラップで

はHS、HI、新断などの高品位クラスの流通や需給に影響を与えることになる。

4. 鉄スクラップの輸出

鉄スクラップの輸出は、現状四〇%の関税が課せられるためあまり進んでいない。しかし内需低迷が深刻に続けば、やがて四〇%の障壁は解除され、かつ国内発生増を背景に輸出にドライブがかかることが必須である。この場合二段階で起きてくると想定される。第一段階;補足しきれない中小メーカー消費分の輸出

一五年四月青島でおこなわれた第8回中国金増循環応用国際会議で中国側が発表した年間一億六、〇〇〇万トに及ぶとしたスクラップ消費量のうち、補足しきれない中小鉄鋼メーカーの鉄スクラップ消費量が約六、〇〇〇万トあると言われる。これが実態であれば内需低迷の影響を受けて淘汰が進みスクラップは余剰化して輸出に回る恐れがある。六、〇〇〇万トの一割としても日本とほぼ同規模の六〇〇万トが世界に出てくることになる。現状の需給ギャップから発生してくる輸出であり、即時性と常態化の恐れがある。第二段階;膨大な鉄鋼蓄積量から発生する老廃スクラップの輸出

二〇一四年末の中国内における鉄鋼蓄積量は約六七億ト(中国廃鋼鉄応用協会発表)だが、毎年の新規増分の積み上り方をみると、粗鋼生産が拡大に転じた二〇〇四年以降の直近十年分が六七%を占める。鉄の平均耐用年数を三〇年(中国の場合はそれよりも長いかもしれないが)とすると本格的くず化は二〇三〇年前後から始まると予想される。この時の電炉比率を現状の一〇%弱から二〇%へ倍増を想定しても約二、〇〇〇万トの余剰が推察される。第一段階と合わせると二、六〇〇万トにおよぶ輸出国となっていると想像する。その頃には自給化が整い輸出転進が予想される韓国を加えると、日本は米国、韓国、中国の3輸出国に取り囲まれることになる。

5. 長期継続が予想される鉄スクラップの低価格化

現在進行している鉄スクラップの低価格化は、一、の鋼材輸出、二、の余剰半製品輸出増加が背景にあり、今後は余剰銑鉄および鉄スクラップが加わって、中長期に亘って中国の影響により継続して行くことになるだろう。長期低価格時代到来を前提にした事業運営が需給双方に求められる。また、日本にとって鉄スクラップは数少

ない国内資源である。「経済性を確保した循環資源」として有効に使う方策を高炉メーカーも含め鉄鋼業全体で議論する時がきている。



データ:日本鉄源協会・展望はSRR

【用語解説】

●ピレット:アルミニウム地金における押出用鋳塊のこと。あらかじめ成分調整し、半連続造法で作られ、押出加工用のため、塊は円柱形に切断されている。ピレットは、押出機にかけて高温で押し出し、管、棒などを作る。

●銑鉄:鉄鉱石を溶鉱炉で還元して取り出した鉄。三〜四パーセントの炭素と少量の珪素(けいそ)・硫黄・磷(りん)などの不純物を含み、硬くてもろい。大部分は製鋼用に、一部は鋳物用に使われる。

**日本再生資源事業
協同組合連合会(日資連)
平成二七年度研修会**

昨年十月一七日、日暮里のホテル「ラングウッド」にて研修会が開催された。

研修会では今年に入って値下がり
の厳しい古布と鉄スクラップの現
状と展望がテーマとなった。
まず(株)資源新報社 専務取締役
の太田原 覚氏が、古布に関す
る講演をされた。ここ一年二年前
から輸出ルート(アセアン諸国)
の開拓により古布市場は急激な伸
びを示して来たが、最近、その輸
出先が国内産業の保護の目的で関
税の引き上げや輸入量を狭めてき
ており、古布の流通に影響が出始
めており、先行きが懸念されると
のことだった。我々も長年、古布
の回収に携わってきたが、古布業
界自体が閉鎖的であり、今後積極
的な情報や市況(平均価格)の提
示を実行して頂きたい。

次に平林金属(株)代表取締役
会長 平林久一氏が、「戦後七〇年
再生資源業界の変遷」ということ
で、自身の生い立ちと会社設立か
ら鉄スクラップ業界の変遷とかか

わりについてのエピソードを話さ
れた。昭和三二年に会社を設立し、
二トンオート三輪を走らせ鉄スク
ラップを回収し、苦勞した話など
は、長年にわたって回収業界で尽
力された六〇歳を越えている方は
同じような経験に、当時を忍ばれ
たのではないかと思われた。
最後に、今号で直言拝聴にご寄稿
頂いている(株)鉄リサイクリン
グ・リサーチ 代表取締役 林
誠一氏が、「国内外鉄スクラップの
需給の展望と課題」について講演
された。

鉄スクラップ価格は一昨年一〇
月ごろから徐々に下落し、昨年一
〇月中旬現在、一年前に比べると
五〇%ほどになってしまい、その
主な要因は中国の景気減速の影響
が大きく関わっているということ
だった。

中国は景気の陰りが出始めた一
昨年後半あたりから不動産投資の
減速により建設関係の鋼材販売が
鈍ったことで余剰化した圧延前の
鉄の塊である半製品(ビレット)
の輸出を急増させ、その輸出先は
韓国、東南アジア、トルコなどで、
輸出量は前年比七〇%増で二、三
〇〇万トンにのぼり、これは日本
の電炉が年間使う鉄スクラップに
匹敵するということだ。

日本も国内供給量の二〇%を韓
国や東南アジアに輸出を行ってお
り、中国の安価な半製品が韓国や
東南アジア圏に出回ることにより
日本の鉄スクラップの輸出や価格
に悪影響を及ぼしている。
日本の鉄スクラップ市況は国内需
要と輸出価格の引き合いで、ある
程度の価格が維持されてきており、
中国の輸出状況が収まらないかぎ
りは国内鉄スクラップ価格の低迷
が続くらしい。

新たな販路でインドなど考えら
れるが国内事情や電力の問題もあ
り、すぐにはいかないようだ。
東日本災害復旧や東京オリンピ
ックに向かい緩やかな市況の回復
が考えられるが一〇円台後半程度
の価格にとどまるのではというこ
とで、鉄スクラップ市況の低迷は
長期化すると予想される。

古布も鉄スクラップも厳しい状況
をむかえているが、当組合では行
政回収により古布も鉄スクラップ
も回収を行っており、市況の悪化
によりリサイクルの輪が途切れる
ようなことだけは避けなければな
らないと思う研修会となった。

マイナンバー講習会

(小畑)

十一月十一日当組合事務所「マ
イナンバー講習会」が開催されま

した。講師を税理士法人土田会計
事務所代表土田士朗さんにお願
いしました。外部団体等で開催さ
れた講習会にも積極的に参加をし
てきましたが、今回は我々古紙業界
の実務的な部分に焦点を当てた講
習をお願いしました。新設された
ばかりの制度に戸惑うことばかり
ですが、今後も確実に法令順守を
していくため、実務対応をしてま
いります。

トイレットペーパー
「フューメラン」
(65m巻き・100個入り)
1ケース3,200円(消費税・配達料込み)です。
※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。
小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市
ご注文は当組合までお願いします。
TEL : 042-395-9788
FAX : 042-395-9787

**(公社) 東京都リサイクル事業協会
北九州リサイクル事情視察会**

十一月二十六日(木)から二十七日(金)に掛け、当組合代表として、栗原理事長を団長とする十名の視察会に参加した。二日間の日程で、家畜用古紙敷料会社、プラスチック資源化センター、市役所、製鉄所を見学した。前日まで雨が続き心配した天候も、当日は朝から好天に恵まれてスケジュール通り動く事が出来た。初日、北九州に到着後まず初めに(株)西日本ペーパーリサイクルを訪問し、家畜用古紙敷料の説明を受けた。この会社は平成十三年にジャパンクリエティブル九州を母体に地元古紙間屋十八社が、古紙の有効活用を目的に設立した。



当時は古紙の余剰問題を解決するための有効手段の一つとして期待された。吉田所長の説明によると、余剰時には低価格で購入出来た古紙も、現在は高価格である為購入が難しくなっている。その為、敷料は機密書類を主体に制作しているが、大鋸屑との価格競争で品質や機能が良くて販売に苦慮しているとの



事であった。とても綺麗にしていて、永く営業される事を期待したい会社であった。次に、北九州市が収集した容器包装プラスチックを全量選別加工処理している、日本資源流通株式会社を訪問した。当組合で委託されている小平リサイクルセンターのBIG版である。作業的には変わらないがヤードが大きく導入されている各種機械も大型であった。二日目 新日鐵住金八幡製鐵所を見学。始めに見学者用センターに案内され鉄鉱石から製品になるまでと、各種製品の説明を受け、高炉と圧延工場を見学した。想像以上に大きな設備と張り巡らされた線路の多さにおどろいた。説明が難しいが、鉄鉱石を溶かせば鉄が出来ると考え



ていた自分が恥ずかしくなった。少し離れた場所にある世界文化遺産登録された八幡製鐵事務所を遠くから見て次の訪問先である北九州市役所に向かった。北九州市では平成六年に古紙集団回収奨励金制度を開始し新聞六円、その他三元でスタートして、平成十六年に、戸別回収五円、それ以外は七円になった。町づくり協議会を設立して集団回収を奨励すると、二円の奨励金がある。面白い取組である。平成十年に家庭系ごみの有料化が始まり平成十八年に料金の値上げが行われた。古紙の行政回収は行っていない。今回の研修では鉄製品の出来る過程を見る事ができ大変有意義であり、北九州市役所の資源リサイクルの取り組みも参考になった。(吉浦)

青年部主導による関東東北豪雨被害での復興支援活動

昨年九月一〇日(木)の関東東北豪雨による鬼怒川決壊の報道は、四年半前の東日本大震災を思い起こさせるほどの衝撃が走りました。そのような状況の中、私が部長を務めている日本再生資源事業協同組合連合会青年部で復興支援に動き出すことになり、当組合としても青年部を中心に全面協力をしました。

きっかけは、青年部同士で連絡を取り合う中で、常総市に住んでいる茨城県の青年部員に状況を聞きながら、何か出来ることとがあればすぐに行く、パッカーでもダンブでも車両も必要なものの手配するからということでお話をさせて頂いておりました。市の対応も追いついておらず、なかなか受け入れ態勢が整わない中、何とか地元の産業廃棄物業者との連携が取れ、明日からでも手伝ってほしいと連絡があり、九月一五日(火)に緊急支援ボランティア活動として、常総市に入りました。その際、事前に依頼のあった消毒液と東



村山市から寄贈して頂いた土嚢袋を支援物資として届けました。常総市への入り口は国道に警察が交通規制をかけており、市内に入るとすでに道路沿いに被災ごみが積み上げられている状況でした。市役所も浸水し、コンビニやファミレスなども浸水して休業、復旧作業をしていますが、浸水地域は、自衛隊、消防、警察、国交省などの緊急車両が復旧作業に当たっておりましたが、国道に流されてきた稲わらが散乱し、浸水して動けなくなつた乗用車をよけながら走るような状況でした。場所によっては道路がまだまだ冠水していて、ボートで移動する姿が見られました。私たちの作業は、バキュームカーによる排水のピ

ストン輸送(汚水のポンプが故障して溢れてくるため)、河川敷に持ち込まれた被災がれきの撤去作業、ボランティアセンターからの依頼による一般家屋からの浸水した家財道具の運び出し・清掃作業を行いました。その後、一般家屋からの収集作業行いました。シルバークワイヤーに入り、全国から多くのボランティアの皆様が集まってきていたので、作業のペースも上がっていききました。



バキュームカーによる排水作業

最終的に、二三日(水)まで継続していく間に、どんどん協力して頂ける青年部員が名乗りを上げて頂き、最終的には六日間で一、二社、車両延べ二五台(パッカー、アームロール、ダンブ、バキュームカー、平ボディトラ

ック)、延べ四人名の皆様にご協力頂くことが出来ました。また、各地から義援金も頂き、有効活用させて頂きました。本当にありがとうございました。



一般家庭からのがれきの運び出し

活動していく中で、徐々にコンビニが再開したり、道路が清掃され、信号が復活しと、復旧の進捗状況を目の当たりにしてきましたが、まだまだ時間がかかりそうだという印象を受けました。ただ、被災ごみの処理に關してもようやく体制が整って行く中でとりあえずは私たちの緊急的な任務は終了したということ、活動を一旦終了させて頂きました。被災地の本当の復旧はまだまだこれからでありますので、今後も何か要請があれば活動をして参りたいと考えています。

(TKO)

リサイクル掲示板

古布（ボロ）の円滑なリサイクルにご協力下さい！

いつも資源回収にご協力頂き、ありがとうございます。一面でもお話しがありましたが、昨年夏ごろより古布の相場が暴落しており、一部では荷受け拒否といった事態も出てきております。主な原因は、古着の最大の需要国であるインドネシアが古着の輸入禁止を強化したことで、日本の古布の輸出先であるマレーシアが購入を制限しているためです。

その前提には、昨年初まで古布の価格が好調に推移していったことを背景に、新規参入する業者が増え、これまでのリサイクルのルールを無視した形で濡れていてもOK、布団もOKといった無理なリサイクルを推し進め、これまで古布を回収していなかった自治体でも回収を開始するなど回収量が増える一方、品質を低下させてしまったことが海外での日本の古布に対する評価を落とす結果につながったのではないかと考えられます。長年かかって築き上げてきたリサイクルシステムを法外な入札価格などで散々かき回し、ダメになったらさっと手を引いてしまうような業者は許せません。

東多摩再資協では、無理なく、持続可能な古布のリサイクルを推進していくために、市民の皆様、行政の皆様と一体となって取り組んでまいりたいと考えております。そのために、下記のことを皆様にご協力頂きたくお願い申し上げます。

①雨の日には古布を出さないようにしましょう

古布は、濡れるとカビが生えるなどしてリサイクルが出来なくなります。このため、雨の日回収した古布は、自治体のごみ処理場で焼却処分しております。折角資源に出して頂いた古布を活かすことが出来ません。雨の日には絶対に出さないでください。（※古紙は多少濡れても大丈夫です。）



古布類は雨の日
出さないでください。

②汚れているもの、油のしみたもの、ワタ類は混ぜないように分別しましょう

古布の禁忌品は、汚れているもの、油のしみたもの、ワタ類（布団、まくらなど）などがあります。自治体によって分別方法は若干異なりますので、各自治体の分別方法に従って出すようにして下さい。

各自治体の分別方法は、ごみ収集カレンダーなど各自治体の配布物、ホームページでご覧いただけるほか、最近ではスマートフォンのアプリでごみ・資源の収集日や分別方法を確認できるものもありますので、活用してみてください。

※汚れたものは洗濯してから出しましょう。
※油のしみたものは可燃ごみに出して下さい。



キルティング、足拭き
マット、夏がけ用の薄い
布団等は可燃ごみです。



西東京市版アプリ

皆様のご協力により、古布の品質を確保しながら、途切れることのないリサイクルを推進していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

リサイクルセンター 従業員研修会

当組合では、小平市・柳泉園両リサイクルセンターにて、行政回収で回収されたビン・缶・ペットボトル等を選別・圧縮・梱包し、再生処理業者に出荷する作業を行っている。また、古布・布団は、古繊維問屋に引き取ってもらっている。

昨年一二月五日(土)、リサイクルセンター従業員対象の研修会が開催され、センターで処理したスチール缶・アルミ缶の再生処理業者(長沼商事株)と、古布・布団を引き渡している古繊維問屋(キムラセンイ株)を見学した。

長沼商事株では、長沼社長より、再生処理している金属の種類・再生処理用設備等について説明があり、その後、金属の再生処理工程を見学した。金属は様々な種類に選別され、破碎・手解体・切断・圧縮・梱包処理されていた。当組合のスチール缶・アルミ缶も、製品原料として、メーカーに出荷しているとのことだった。

キムラセンイ株では、佐藤統括部長より、古布及び布団リサイクルの流れ等について説明があり、そ



長沼商事株にて



キムラセンイ株にて

の後、古布・布団の選別処理工程を見学した。まず古布は、選別ラインにて異物を除去し、古着や反毛(フェルトの原料)、ウエス(雑巾)のように、原料になるものに選別。状態の良い物や、国内ニーズが高い物は、種類別に選別し、市場に供給する。布団は、側生地を取り除き、原料となる綿を取りだし、種類別に選別。綿をほぐしオゾンを注入し、殺菌脱臭する。バラバラになった綿をまとめ、約七〇〜八〇kgに梱包し、各加工工場へ出荷する。工場では、布団の原料や、リサイクル綿糸、再生化繊、軍手等に生まれ変わる。また、国内でニーズの少ない物は、海外に輸出し、現地の工場にて約三〇〇の種類に分け、ウエスや再生綿の原料になる。一部は、古着として、現地の店頭に並ぶ。

今回の研修会で、資源物は、分別を徹底することによって、国内外でリユースされたり、再生資源

としてリサイクル出来ることが分かった。(加藤)

紙パック回収システム 強化研究会で基調報告

昨年十一月二六日、同研究会は、農水省・環境省・経産省から四名の他、紙パックの製造会社・飲料会社・家庭紙メーカー・古紙センター・自治体代表など総勢三〇名ほどが参加して開催された。

当組合は、「多摩地域における紙パック回収状況」の調査報告だった。

紙パック類は、容リ法の対象品目だが、再商品化義務は無く、市場原理で十分にリサイクルされる物として扱われている。しかし、その回収率はなかなか伸びず、製造段階の損紙を入れても四五%弱と低迷していると言う。

本研究会は、回収率アップの強化策として、新たな回収システムの構築を模索しているようだ。

報告にあたって、当組合の関係五市(小平・東村山・清瀬・東久留米・西東京各市)の紙パック回収量を調べてみると、平成二六年度の五市合計が三八トだった。

だが各市の行政回収や集団回収に携わっている我々回収業者の現場では、雑誌雑紙の中に混入してい

るパックも選別して百数十トの紙パックを回収している。バラバラになっているものは、雑紙として処理されるが、紙パックだけをまとめて紐で結わえてあれば現場でも容易に分別回収が可能だ。

ところが、各市の行政回収(集団回収)には、紙パックの項目の無い所が多く、雑紙としてカウントされてしまう。同じような自治体は全国にかなりあるようだ。

市民は、ごみにして捨てたりしないで丁寧に洗浄して開き乾燥させて出す人が大多数だと思う。それが紙パックとしてはカウントされないだけで、実際のリサイクル率は最高値に近いのかもしれない。

新たなシステムを考えるまえに、現状の回収形態で、分別可視化する方法は無いのか、コストや労力負担を考えたら一部雑紙で処理した方がベターでは、など課題や問題点を示して報告した。



基調報告する紺野常任顧問

特種東海エコロジー(株)

本社・工場 視察報告

去る十一月三十日特種東海エコロジー株式会社(本社・静岡富士山 代表取締役社長 渡部廣様)を視察した。

特種東海エコロジー(株)は平成十四年十一月から東多摩再資協ブランドトレットペーパー「ブーメラン」の製造をお願いしている製紙会社。今回の視察は「ブーメラン」の製造工程を確認するためのものである。

平成十年八月一日小平市リサイクルフェアにて、トレットペーパー「ブーメラン」が初登場。以来今日に渡り小平市、東村山市、西東京市、清瀬市、東久留米市の五市約八十五箇所の公共施設等から注文を頂きご愛用いただいている。

「ブーメラン」の原料には五市の役所、企業等で発生する古紙を当組合員が回収し特種東海エコロジー(株)に納入しているものが含まれている。当日工場を視察していると偶然にも当組合から古紙を引き取って来たトラックが荷下ろししていた。まさにその名の通り古紙がトレットペーパー「ブーメラン」となって戻ってくるのだ。

特種東海エコロジー(株)本社・工場はトレットペーパー

生産量日本一を誇る静岡県富士市にある。工場内は清潔で作業員が少なくロボット機器が大活躍している。日産約一〇〇トン、一ニロールタイプのトレットペーパー約八万パック相当を生産する再生紙トレットペーパーの単一工場としてトップクラスの生産量を誇る。

特種東海エコロジー(株)は再生パルプの製造に「ニーディングパルプ製造法」を採用している。この製法で作る再生パルプは紙の繊維を細かく絡み合わせる事が出来るため純粋パルプに近い仕上がりになるとの事。離解、異物除去、脱墨・洗浄を経て再生パルプになる。



荷下ろし中の当組合の古紙と再生

水を含んだ再生パルプは三台の抄紙機の網の上で乾燥させて、ジャンボロールに巻き取られる。トレットロールへと加工される。その後の紙包装、ポリ包装ラインでは人の目で製品をチェックしコンピュータ制御された二台の製品パレット積みロボットが出荷先毎にパレットに製品を降ろす。倉庫には梱包されたトレットペーパーが積み上げられ出荷を待っていた。



自動梱包前作業員が検品

スマートフォン普及でペーパーレス化が加速する中、トレットペーパーの原料不足が深刻な問題となっており、ロール幅の変更、原料の種類幅を広げる等早急に検討する必要にせまられているとの事。その一方でトレットペーパーの需要については増加傾向にあると説明があった。

良質な再生紙の製造には良質な古紙が不可欠である。各家庭、企業等では日頃から分別の徹底をして頂き、当組合はじめ回収業者がそれらを確実に回収することで高品質な古紙の回収量の増加に繋げることが出来る。古紙原料の重要性について改めて考えさせられた視察となった。此の度の視察では渡部社長様はじめ、営業部畠山参与様以下関係者の皆様に長時間にわたり心のこもったご説明をしていただきました。改めて心より御礼申し上げます。(山本)



富士山をバックに本社・工場前にて

職場体験学習

組合活動の一環として、毎年協力している職場体験学習が、行われた。東村山市立第二中学校は、九月十五日と十六日の二日間。J P資源(株)と日興紙業商事(株)がそれぞれ二名、(株)三栄サービスと(株)ケイシンがそれぞれ三名を受け入れました。

また、東村山市立第四中学校は、十月二十二日と二十三日の二日間。J P資源(株)が二名を受け入れました。

東村山市立第二中学校

一日目・二日目共に、ヤード内で新聞、雑誌等の選別作業を体験してもらい、一日目の午後には、当組合事務所で、資源リサイクルに対する知識の勉強会を実施。資源の分別や出し方の学習と併せて、紙が出来るまでの工程を学ぶ紙漉きを体験してもらいました。



東村山市立第四中学校

一日目は、トラックに同乗して古紙回収を体験してもらいました。

二日目は、ヤード内で新聞、雑誌等の選別作業を体験してもらいました。古紙が何処からどのように回収され、選別・加工作業を経て、何処に出荷されていくのかという一連の流れを理解出来るように体験学習してもらいました。



【まとめ】

職場体験学習は、生徒の皆さんに学んで頂くだけでなく、我々も初心に帰ってリサイクルの再確認ができて、新たな発見がありました。これからも、出来る限り多くの市民の皆様と交流をもって、社会貢献をしてまいりたいと思っております。二日間を通して、生徒たちの将来設計の一助になればと思えます。

【参加した生徒達からの感想】

「先日の職場体験学習では、組合の皆様、温かく接して頂きましてどうも有難うございました。また、仕事そのものについて、職場での人間関係、及び組合の職種であるごみの出し方や資源物の回収と処理等多くの事を学ばせてもらいました。大変感謝しております。本当にありがとうございます。」



「東京都立田無特別支援学校の職場体験の受け入れをしました」

平成二十七年十一月一七日から二日迄、田無特別支援学校の生徒一名の職場体験学習の受け入れを行いました。障害を持つ生徒さんの受け入れは初めてのことで、お引き受けすべきか迷っておりまして、事前に面談もさせて頂いたが、本人の素直な性格が感じられ、お引き受けすることに致しました。

実際に五日間、一緒に仕事をしてみると本人も楽しそうに仕事をしていることが感じられ、私たちも普段業務を行う中では感じたりすることの無い「気づき」があり、受け入れを行って良かった実感致し、今後も続けていければと感じました。



回収作業員安全講習

十一月十三日(金)東村山市スポーツセンター2F大会議室にて「第九回回収作業員安全講習会」が開催されました。組合員各社から百二十名が参加しました。来賓として、地元自治体三市の資源回収担当者の方々にお越しいただき、日頃の安全作業への感謝と、回収中の注意事項などについて、ご挨拶を頂きました。また、講師をいすゞ自動車首都圏株式会社ソフトビジネス部、坪井信次郎様と斉藤美之様にお願いました。今回は六月一日より施行された改正道路路交通法により罰則が厳しくなつた自転車に焦点を当てました。自転車は「軽車両」なので、自動車と同じように歩道ではなく車道进行るのが原則です。6月以降車道进行する自転車が急増し



たため死角の多いトラックはより注意が必要となります。今まではすと、トラックから見た〇〇というテーマで講習を行ってききましたが、自転車から見た道路状況という今までにない視点で安全運転を考えてみました。道交法を知らないまま運転している子ども、車が止まってくれらるだろうと考えた一時停止無視。スマホをいじりながらの無謀運転。信号無視。横断歩道のない道路の横断等。角度を変えたことによつて見えていなかったものが浮き彫りになりました。柔



軟な姿勢を持ちプロのドライバーとして、ありとあらゆる状況を想定した訓練や講習を続け安全作業に努めてまいります。

古紙持ち去り問題 GPS追跡調査

当組合では関東製紙原料直納商工組合(以下関東商組)よりココセコムというGPS端末を借り追跡調査を関係各市と連携して定期的に行っています。今回は、小平市、東村山市、東久留米市、西東京市の行政回収の古紙に設置されました。残念なことに、小平市鈴木町でGPSが設置された古紙が盗まれた。関東商組のホームページにて常習的買入事業者として氏名公表されている会社(荷物が入りました。関東商組、小平市、当組合で抗議に行つて参りました。口では持ち去りをさせないようにしていると言いながら、対策が不十分だと感じました。また東村山市でもGPS入りの古紙以外の持ち去り行為を確認しました。資



源物の日に出されている資源は、皆さんの財産です。犯罪行為を撲滅すべく追跡調査は今後も続けてまいります。

検査活動



当組合は、官公需適格組合を取得しています。官公需適格組合制度とは、官公需の受注に対して特に意欲的であり、かつ受注した契約は、十分に責任を持つて履行できる経営基盤が整備されている組合であることを中小企業庁(経済産業局及び沖繩総合事務局)が証明する制度です。規約により、共同受注検査を年四回行つております。今回は、東村山市、東久留米市、西東京市の行政回収作業員と車両、柳泉園の作業員の検査を行いました。服装、体調、アルコールチェック、車両の日常点検、装備品の確認など数々のチェック項目があります。安全かつ品質の高い業務遂行をして行くため、組合員一同頑張つてまいります。

各市リサイクルイベントに参加

●小平市環境フェスティバル

九月十二日(土)、小平市中央公園にて開催。当組合では、雑貨類や牛乳パックを回収して、景品と交換。また、資源の分別ゲームを行い、景品を提供。

●東村山市リサイクルフェア

十月十八日(日)、東村山市役所で開催。開会式では、本年度の実行委員長を務める当組合の吉浦理事長が挨拶。当組合では、雑貨類や食器類を回収して、景品と交換。また、資源の分別ゲームを行い、景品と交換。

●清瀬市市民まつり

十月十八日(日)、清瀬駅北口のケヤキ並木通りにて開催。当組合は、トイレットペーパー「ブーメラン」を八ケース販売。



行事・行動

【平成二七年九月】

三日：総務委員会

十日：青年部会議

十一日：RC安全会議

：定例理事会

十二日：小平市環境フェスタ

十四日：青年部会議

十五日：東村山二中職場体験

：福利厚生委員会

：業務委員会

二九日：小平市ごみ減量実行委

三〇日：東村山市業者連絡会議

【十月】

七日：東京中央会

：東村山市RF実行委

八日：紙のリサイクルセミナー

九日：RC安全会議

：業務委員会

：共同受注検査委員会

：財務委員会

十二日：定例理事会

十四日：西東京市廃棄物減量審

十六日：西東京市受託業者会議

十七日：日資連研修会

十八日：東村山市

：清瀬市市民まつり

十九日：共同受注検査

二〇日：GPS調査(西東京)

二一日：共同受注検査

：業務委員会

二二日：東村山四中職場体験

二七日：東村山市業者連絡会議

二九日：東資協セミナー講習会

三〇日：共同受注検査

【十一月】

二日：GPS調査(東村山)

三日：共同受注検査

五日：小平市R「きやらばん」

十日：財務委員会

：業務委員会

十一日：セミナー講習会(土田)

：定例理事会

十三日：回収員安全講習会

十七日：東久留米市環境F実行委

十八日：集団回収委員会

：広報委員会

二五日：東村山市業者連絡会議

二六日：東リ協会・九州視察

：牛乳パック協議会研究会

：都議会民主党の集い

二九日：組合研修会(三〇日まで)

【十二月】

五日：RC従業員研修会

十一日：RC安全会議

：小平市ごみ減量実行委

：定例理事会

十五日：GPS調査(小平)

：環境更新審査

：東久留米市環境F実行委

十六日：GPS調査(東久留米)

二四日：GPS調査ヒアリング

二八日：仕事納め

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。まずは、直言拝聴にご寄稿いただきました皆様、ありがとうございます。日資連研修会での講演をお聞きした際に、ぜひ今後の鉄くずの動向についてご寄稿頂きたいと思ってお願ひさせて頂きました。今後の鉄くずの動きに関してはあまり状況が改善しないことを改めて痛感した次第です。資源物は発生物であります。人が生活していれば、必ずごみや資源を排出します。これを、如何に途切れることのない、リサイクルルートに乗せていくかが肝要です。二十数年前、古紙や金属が余剰化し大問題となった時、我々業界は各地域で組合を作り、市民、行政と手を取り合って今のリサイクルシステムを創り上げてきたのです。そして、相場の変動や需給のバランスに合わせて、価格調整、在庫調整も組合が担って来ました。東多摩再資協が受け持っているこの地域のリサイクルの輪は絶対に途切れさせない、回収したものは、一〇〇%リサイクルする!そんな決意でこれまでやって来ました。市民の皆様、行政の皆様、これからも連携して地産地消のリサイクルを作っていきましょう。(TKO)